

## 盲学校における レクリエーション・スポーツについて —— 行事・体育・クラブの種目 ——

神奈川県総合リハビリテーションセンター七沢ライトホーム 渡辺文治

キーワード：盲学校 視覚障害者 行事 スポーツ・レクリエーション種目

### 1. はじめに

近年障害者のレクリエーション・スポーツが盛んになり、様々な試みが行われている。現在視覚障害者のスポーツとして行われている種目の大部分は、盲学校で開発されたり、広められたものであると思われる。視覚障害者の世界では盲学校の果たしてきた役割は非常に大きい。しかし、個々の学校の状況や種目についての報告はあるが盲学校全体の活動についてまとめたものは少ないようである。そこで今回、盲学校のレクリエーション活動を明らかにするための予備調査としてアンケート調査を行った。

### 2. 調査の概要

- ・調査方法 … 郵送によるアンケート調査
- ・調査対象 … 全国の盲学校のうち、中学部・高等部（普通科と理療科）69校
- ・調査項目 … 1991年4月から1992年3月までの  
在籍者数、校内で行った行事・実施時期、体育や行事で行っている種目、現在活動しているクラブ名、地域の身体障害者スポーツ大会への参加の有無、地域における盲学校同士の対抗戦の有無と種目、地域独自の大会種目、今後実施したい種目等
- ・調査時期 … 1992年3月
- ・有効回答数 … 中学部40校、高等部（普通科・理療科を含め）37校

### 3. 結果と考察

在籍者数は中学部は1校平均11.6人、1学年あたり4人程度であり少ない。高等部の場合は1校平均普通科15.1人、理療科31.1人、全体では45.4人である。

表1-1、1-2に主な校内行事について示した。盲学校では運動会・文化祭・修学旅行をほとんどの学校で実施している。しかし、隔年（3年に1回を含む）という但し書きもあり、特に中学部の修学旅行では6校（15%）にみられるなど生徒数の減少の影響が現れている。スポーツ的なものでは球技（盲人パレーボール・盲人野球・盲人卓球）が多く、なんらかの形で行っているところが中学部で16校（40.0%）、高等部で15校（43.2%）となっている。

その他あげられているものは中学部ではなわとび（3）、寒稽古（2）、スポーツテスト（2）、綱引き、ボーリング、ウォークラリー、オリエンテーリング、登山、強歩、クリスマス（2）、もちつき（2）、学習発表会（2）、野外炊飯（2）、弁論、野外教育各1である。高等部では寒稽古（2）、スポーツテスト（2）、なわとび（2）、海洋訓練、綱引き、カンボーリング、フットベースボール各1、予饗会・送別会（4）、クリスマス（2）、弁論、学習発表会、施設見学、臨海・林間学校など各1である。

表1-1 中学部・高等部の主な校内行事 (%)

	文化祭	修学旅行	遠足	キャンプ	校外宿泊
中学部	91.9	86.5	25.0	15.0	17.5
高等部	87.5	85.0	27.0	10.8	2.7

表1-2 中学部・高等部の主な校内行事 (%)

	運動会	球技	盲野球	盲バレー	盲卓球	マラソン	水泳	スキー	スケート
中学部	94.6	40.0	12.5	20.0	10.0	15.0	20.0	15.0	15.0
高等部	87.5	43.2	21.6	21.6	13.5	2.7	13.5	13.5	10.8

表1-3に行事実施の時期を示した。運動会は9-10月が最も多く、中学部で26校(65.0%)、高等部で27校(73.0%)である。5-6月はすべて北海道・東北・北陸地方の学校である。文化祭は10-11月が最も多く、中学部で35校(87.5%)、高等部で32校(86.5%)である。修学旅行は春と秋に分散しており、一定の傾向はみられない。

記載があっただけで隔年(3年に1度を含む)が中学部で6校(15.0%)、高等部で3校(8.1%)あった。

表1-3 校内行事の実施時期

時期(月)	中学部					高等部 (校)				
	5・6	9	10	11	その他	5・6	9	10	11	その他
運動会	9	12	14	0	5	5	11	15	1	4
文化祭	0	0	10	25	5	0	1	10	22	4
修学旅行	11	3	11	4	8	12	8	8	1	7

※高等部の運動会に9-10月を1、修学旅行に10-11月を1加える

表2-1、2-2に体育・行事の主な種目について球技とそれ以外の種目について分けて示した。球技が多く、ほとんどの学校でなんらかの形で行われている。特に多いのが盲バレー、盲野球、盲卓球の3つである。意外に多いのがゲートボール、その他グランドゴルフ、バスケットボールやサッカーなど社会人ではあまり行われていない種目も取り入れられている。

球技以外では水泳が多くほとんどの学校が実施している。柔道・マラソン・スケートは地域にかかわりなく行われている。クロスカントリースキーは東北・北陸が中心であるが、アルプンスキーは近畿地方でも行われている。その他キャンプ・登山・ハイキングなども地域にかかわらず行われている。表にあげていないもので多いのはなわとびで中学部で7.5%高等部で16.2%を占めている。その他音響走や立ち幅跳び等の陸上系の種目やストレッチ・トランポリン等の体操系の種目、珍しいものではつなひきや座り相撲なども記載されている。

表2-1 体育・行事の主な種目(球技)

	盲バレー	盲野球	盲卓球	ゲートボール	グランドゴルフ	ゴルフ	バスケット	サッカー	トッチボール
中学部	95.0	77.5	70.0	15.0	0.0	2.5	7.5	7.5	2.5
高等部	100	91.9	78.4	21.6	10.8	2.7	8.1	5.4	0.0

表2-2 体育・行事の主な種目（球技以外）

	水泳	柔道	アルペン	クロカン	スケート	ローラー	マラソン	登山	ハイキング	キャンプ	ハスキー
中学部	90.0	25.0	30.0	12.5	52.5	10.0	57.5	12.5	20.0	47.5	10.0
高等部	89.2	45.9	21.6	10.8	45.9	8.1	45.9	8.1	18.9	32.4	13.5

※ ローラーはローラースケートの略

表3-1、3-2に主なクラブの数とクラブのある学校の割合を示した。中学部では運動部系が91、文化部系が101で計192、平均4.8である。高等部では運動部系が125、文化部系が128で計253、平均6.8の記載があった。これは盲学校の在籍者数からみるとかなり多いといえる。しかし、回答の内容を見ると中・高一緒に実施したり、季節によって活動内容を変えるなど生徒が少ない中での工夫がみられる。

”その他”は運動部・体育（体操）・スポーツというような名称である。それ以外ではグランドゴルフ・パトミントンそれぞれ1を含む。高等部では中学部に比べ、運動部系が多い。しかし、クラブの種類が少なく、視覚障害者に可能なスポーツが少ないという特徴を示している。

文化部系のクラブでは音楽関係のものが最も多く、なんらかの形でクラブのある学校は中学部で28校（70.0%）、高等部で28校（75.7%）にのぼる。”音楽”は軽音楽やコーラス、ハンドベル、カラオケなどを含む。”邦楽”はほとんどがそう曲で和太鼓、民謡などを含む。”家庭”には茶道、華道を含む。”美術”にはアート、陶芸などを含む。”将棋”には囲碁、オセロが含まれる。文芸部は中学部で2、高等部で3と少ない。盲学校のクラブなので理療（東洋医学）や点字などがあり、高等部では理療が7校（18.9%）になる。

表3-1 盲学校の主なクラブ（運動部系）数と学校の割合 ※下段は（%）

	盲バレー	盲野球	盲卓球	水泳	陸上	柔道	その他
中学部	22	21	13	5	10	12	8
%	55.0	52.5	32.5	12.5	25.0	30.0	20.0
高等部	26	31	20	10	16	17	5
%	70.0	83.8	54.1	27.0	43.2	45.9	13.5

表3-2 盲学校の主なクラブ（文化部系）数と学校の割合 ※下段は（%）

	音楽	吹奏楽	邦楽	演劇	放送	ハム	コンピュータ	理療	家庭	美術	将棋
中学部	21	8	12	5	5	2	6	2	8	12	9
%	52.5	20.0	30.0	12.5	12.5	5.0	15.0	5.0	20.0	30.0	22.5
高等部	24	8	17	4	8	7	7	7	13	7	16
%	64.9	21.6	45.9	10.8	21.6	18.9	18.9	18.9	29.7	18.9	29.7

表5に各地方の盲学校同士の対抗戦の種類と参加状況について示した。地域によって種目数や内容に差がある。全体としては盲人バレーボール・盲人野球・柔道の大会が多く、1校あたりの大会数を見ると、高等部は3.5となっている。地方による差も大きく、近畿や関東の大会数の多いこと、逆に九州などの少ないことが注目される。また、盲人バレーボールはほとんどの学校で行われているにもかかわらず、地方の大会のないところがあ

る。神奈川などでは社会人のスポーツとして、最も盛んな盲人卓球の大会が意外に少ないことも注目される。

表5 各地域の対抗戦と参加状況（高等部）

	盲バレー	盲野球	盲卓球	柔道	陸上	水泳	その他	1校平均の大会数
東北	5	5	0	4	3	0	1	3.6
北陸	3	3	0	3	0	0	0	3.0
関東	6	5	5	2	6	6	0	5.0
東海	4	4	0	4	2	0	1	2.5
近畿	5	7	6	4	6	6	1	5.8
中四国	1	7	6	1	1	0	0	2.7
九州	4	1	0	3	0	0	0	1.6
小計	28	32	17	21	18	12	3	3.5

※ 北海道は回答がなかった

地域独自の大会があるかどうかについては記載が少なかった。宮城県のハンディキャップ卓球・スルーテニスや特殊教育学校体育大会など、神奈川県における盲人バレーボール大会などが目立つ程度である。

今後実施したい種目はどんなものかという設問にはマラソンやグランドゴルフなどがあげられている。また、地域の特性にあわせ、現在行われていない種目である九州の陸上競技や盲人卓球の大会、盲野球の学生全国大会、男女混合の盲人バレーボールなどがあげられている。

## 5. おわりに

今回の調査では種目数が少ないことや一定のものに集中しがちな盲学校におけるレクリエーション・スポーツの実態の一端がある程度明らかになった。在籍者数の減少、重度化・重複化の中で今後盲学校の教育がどう変化していくかみまもっていきたい。

## 《参考文献》

- 古畑英雄・渡辺文治他（1992）：神奈川における視覚障害者のレクリエーション（1）第1回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集、158～161
- 根岸寛・長岡加藤治（1972）：日本の盲人スポーツ、世界盲人百科辞典、163～170
- 渡辺文治他（1992）：神奈川における視覚障害者のレクリエーション（2）第1回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集、162～165
- 渡辺文治（1992）：視覚障害者のレクリエーション1 盲人バレーボール、視覚障害119 1992-5、41～49
- 渡辺文治他（1993）：神奈川における視覚障害者のレクリエーション（3）第2回視覚障害リハビリテーション研究発表大会論文集、164～167